平成２７年度第３回古賀市文化芸術審議会議事

日時：平成２８年2月２６日（金）１０時００分 ～ １１時３０分
場　所：市役所第１庁舎４階第２委員会室
出　席：審議委員　緒方会長、中山副会長、加藤委員、河村委員、古賀委員、坂﨑委員、志賀委員、結城委員、米倉委員
行　　政　中村市長、長谷川教育長
事 務 局　吉村教育部長、安部生涯学習推進課長、西村文化･スポーツ支援係長、田中主事、村山歴史資料館館長、金子歴史資料館係長

配布資料
レジュメ、コーディネーター育成についての資料、市民活動団体資料、古賀市美術作品の寄附・寄贈に係る事務取扱基準に関する要綱（案内とともに事前に配布）

(司会：西村文化･スポーツ支援係長)

１　開会のことば（吉村教育部長）
２　市長あいさつ
今日はリーフレットを２枚お配りしたんですが、シティセールスという古賀市のいいところを見つけ出して広く世間に PR しようと言う取り組みについてやっています。特にその中でも思うのは、まちづくりの中で市のイメージアップが大事であると強く感じます。シティセールスとともに、まずは古賀市民が自分の市のイメージをアップできるようなことをやりたいと思っております。今考えておりますのは、芸術の力を多分に借りて古賀駅をきれいにしようと。古賀駅の階段と２階の通路は古賀市の管理です。階段につきましては殺風景だったので、階段の踊り場に絵を飾ろうと来年度予算で計画しております。２階の通路の壁については、もとから市の掲示板としてイベントの案内を掲載しておりましたが、それもきれいにしていこうと。また、別の枠には古賀市の PR していくことや古賀の魅力再発見という取り組みで受賞した作品を小さくプリントしたものを貼ったりなどして少しはイメージも良くなったのかなと。西口のランタンオブジェあれもきれいにしたいと思います。古賀駅は古賀市の顔でもあり、玄関でもありますので、イメージをあげていきたいと思います。また、コスモス館の壁の絵も汚くなってきておりますので、そこもやりかえるなど、来年度計画しております。そういうことにつきましても、本審議会でご意見ご指導いただければと大変ありがたいと思っております。また、古賀駅についても、ぜひご覧になって、ご意見等あれば、本審議会通さなくても結構でございます。事務局、また私のほうにご意見いただければと思います。
お配りしたシティセールスについてのリーフレットですが､今年の１月に作成したものですが、九州産業大学の芸術の力をお借りしています。なかなかおしゃれなものが出来たなと、こういうものを今後もやっていきたいと思っておりますので、ご参考までに配布いたしました。

３　教育長あいさつ
第１回目の会議の際に、文化芸術事業企画書というものをお配りしたかと思います。この１年間、１年目の教育長として、出れる範囲で全て出席しようと努力してまいりました。ここで審議された中身が、素晴らしい状況で市民の方々に披露されているなと思っています。直近では

こども美術展を先日見させていただきました。古賀市の子どもたちの感性豊かな表現力にびっくりしたところであります。学校での文化芸術体験においてもご指摘もいただいているところですが、予算などの関係がありまして、なかなか外部の素晴らしい芸術家をお招きしてなどは出来ませんが、授業の中で、書道であるとか、美術であるとか、応募して各学校で賞をいただいております。賞をいただいたくことで、子どもたちの励みになりますし、指導する側の教職員にとっても指導しがいがあると捉えているようであります。文化芸術の感性というものは小さい頃から培われるものであろうと私も思っておりますので、大人目線ではなくて、特に学校教育に関しましては、小学生のころから豊かな感性を培っていきたいと思います。先ほど市長のあいさつに出ました展示についても、出来れば小中学生の作品も展示していただければと思っているところです。また、委員におかれましては、任期が２年と、今年度で任期を終えられる方もいらっしゃると事務局より聞いております。本当にありがとうございました。引き続きしていただける方については、よろしくお願いしたいと思っております。本日は報告事項が２件、協議事項が１件です。短い時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

４　会長あいさつ

今、市長、教育長のお話を聞く中で、いくつか思うことがありました。去年、アメリカとイギリスの博物館調査に行ったんですけども、イギリスのリバープールの博物館の入り口に「ミュージアム　チェンジ　ライフ」と飾られていました。これはミュージアムをアートに読み替えも出来るんじゃないかと思います。博物館、芸術というものが人々の生活を変えていくんだと、生活の質を上げていくんだということを博物館の入り口に掲げる。そして、それを見る市民たちがその場に居合わせる意味を考えることが出来るような施設になっているんじゃないかと思いました。先週、ブルックリンの美術館の方を招いた国際フォーラムを開催しました。その方がおっしゃった言葉の中で非常に印象に残ったのは「パーソン　センター　ミュージアム」、つまり人々が中心となる博物館。先ほどのお話を聞く中では、市長が文化芸術を真ん中に入れるひとつとしてすえながら市制を進めていくということを考えておられるなら、「パーソン　センター　コガシティ」という、人々が中心の古賀市を目指していく。この文化芸術審議会で様々なことをお話をさせていただき、より良い古賀市の文化芸術の推進に向けて、皆さんに知恵を出していくという場をいただいております。教育長も言われておりましたが、来年度、豊かな文化芸術の推進、そしてそれが生活の質をあげていくことにつながればいいのかなと思います。今日もよろしくお願いいたします。

５　報告（以下、進行は審議会会長）

（１）古賀市美術作品の寄附・寄贈に係る事務取扱基準に関する（説明：田中主事）

市の財産を管理する管財課と協議した結果、きちんとした保管庫がないこと、市の財産として一生管理していくためにも厳正な審査と取捨選択が必要であるとの理由から、市長が認めるものはこの限りではないという一文を除いた形で来年度４月１日より施行予定です。

緒方会長　評価額というものが、決定通知書、辞退通知書の中に出てきますので、審査会を設けて評価の決定をしなければならない。要綱の下につく細則で盛り込まれることになるんだろうと思うところです。第３条の２項でいうと、寄附・寄贈の申し出があったときは、

前条に規定する事項に照らし審査したのち、とありますが、一般的にはここは審査については、美術作品等採納審査会が、審査・諮問した後、市長の決済を受けなければならないと思います。寄贈を受けたところで言うと、美術作品の移動と言う問題が必ず発生してくると思うんですが、これが小さな作品であれば、公用車などで対応できるかと思いますが、これが大きな作品になるとちゃんとした専用車両での運搬が必要になってくるかと思います。そのあたりの費用が、一般的には寄付者・寄贈者の負担になります。特別な事情があるならば、市費で対処するということも盛り込まれることが一般的ですね。貸し出しだとか、展示だとかで物が移動することがありますので、これについては、保管だけでいいですよなんて寄付寄贈者だけではないでしょうから、展示しますよ、特にいい作品については他館や美術館などから貸してほしいと言われることもあるでしょうから、貸し出しについても細則の中に盛り込んでおくといいのかなと思います。
著作権のことがまったく書いてない。それも細則に盛り込んでいけばいいと思います。撮影する、また広報に寄贈されましたと載せるということも出てくるかもしれませんし、古賀市の美術作品リストなどをつくるなどもあるかもしれません。要は印刷物ですね。そのために写真を撮るとなると著作権の問題が当然出てきます。今、TPP の審議の中で、で農業分野のことだけでなく、著作権についても話が出ています。アメリカがコンテンツ産業が非常に盛んですから、今、死後５０年の著作権を７０年に延ばしたいということで概ね合意形成が出来ていますから、それらについても、何らかの形で盛り込むほうが適当なのかなと思います。これは要綱として大枠を定めるものなので、細則で盛り込んでいけばいいのかなと。私はこういうのに携わったことがありますので、お伝えしておこうかなと思いました。決定通知書と辞退通知書、評価額がつきますから、審査会が必要であるということ。もう一つは、表にあるのは作品名だけなんですけど、寄贈者が遺族の可能性もありますので、作者名も表の中に盛り込む必要があります。企画についても、やっぱり重たいのかな軽いのかなと言うのは材質等の記載がないとなかなかわかりづらいというのがありますから、備考欄でかまわないと思いますが、材質などを盛り込めるようにするのが適当なのかなと思います。辞退通知書については、下記の作品について残念ながら辞退いたしますと書いてありますが、根拠が示されてないんですよね。先ほども申し上げたとおり、審査委員会での審査・評価した結果に基づきなど、寄贈した人はどういう経緯で、どういう場所で、決定したのかわからないと、不服申し立てが出てこないとも限らないので、ここは詰めたほうがいいのかなと思います。以上です。

事 務 局　会長、ありがとうございました。こちらの要綱は、附則のほうで書いておりますけど２８年の４月１日からとなっておりますので、細則等、また中身についてもご意見等いただきましたので、こちらで検討したいと思います。

緒方会長　それでは、つづいて市民公募についてご説明お願いします。

事 務 局　本日が募集締切りとなっております古賀市文化芸術審議委員の募集について、現在、各枠１名ずつの募集に対し、歴史枠４名、文化芸術枠４名の応募があっております。どちらも抽選が決まっておりますので、３月４日１０時より生涯学習推進課事務所横応接室で抽選会を開催予定です。

緒方会長　何かご質問等はございませんか。抽選と言うのは内規みたいなものがあるんですか。

事 務 局　特にありませんが、前回の公募のときにも公平性を考え、抽選で委員の選出をしておりましたので、今回も同じ方法で選出する予定にしております。

河村委員　私も去年抽選で選ばれましたが、他の委員会や古賀市以外では審議会の委員が抽選で決まるというのはあまり聞いたことがありません。公平性はありますが、やはりふさわしい方をある程度検討されたほうがいいのではないかと思いました。

事 務 局　今後検討いたします。

６　協議

(1)　コーディネーター育成の方法について（安部生涯学習推進課長）

別紙資料に沿って説明

このような大枠の考え方を元に、今後コーディネーターの育成を行っていきたいと考えています。結局、コーディネーターとして養成しても、養成した後、活動する場所・舞台がないと養成しっぱなしになってしまいます。そうはしたくないと考えたときに、今ある程度の活動をされている団体さん、センター的機能を有しているような団体さん、コーディネーターも一部担っているような団体さん、そういう方々に来ていただきながら、コーディネートスキルアップ講座というニュアンスで開設して、コーディネーターの役割だとか、理解とスキルだとかいうところをメインに仕掛けていけたらと考えています。委員の皆様のご意見をもとにして作り上げていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

緒方会長　ありがとうございました。コーディネーターの育成というのは、アクションプランに盛り込まれているということもあり、これについては時間をかけて議論したというのは記憶に残っているところであります。来年度以降、具体的に予算はとっていますか。

事 務 局　コーディネーター育成のために新たにというわけではありませんが、現在本課が持っている人材育成の予算を使って何がしか実施していきたいと考えているところです。

緒方会長　今、課長から話があったように、コーディネーターの育成をするんだという目標をもっていると。それにあたって、文化芸術に関するコーディネーターたるものはどういうコンセプトを持つものなのか書かれているのが１ページ目ですね。そして、どのように発揮してもらうのかを考えたときに、どんな人たちに、どういう内容を持つなかでコーディネーターとしての役割を果たしてもらうのかというフレームを出していただいたところであります。課長が申したように、これまでコーディネーター養成講座と言うのは、国にしても県にしても何回となくやって、結局続けられないというのが実情でありますので、そこは同じようなことはしたくないと安部課長もお思いになっていることと思いますし、私どももそうしたくないと思っています。コーディネーターの位置づけですね。それについてはしっかりと議論していかなければならないと思います。団体といっても、どの団体なのか、市として、事務局を持って、ここで雇用していくのか、ボランティアというわけにはいかないと思うので、そういうところも考えながらコーディネーターの養成について議論していきたいなと思います。今説明あった資料について、ご質問、ご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

中山副会長　文化芸術のコーディネーターの方に、学校というのは入っているんですが、子どもが古賀市に生まれ落ちたときから文化芸術に親しむ機会をぜひ。子どもという視点を持っていただきたい。そこはコーディネートの対象になりますかね。これから育っていく子どもたちのためにも、いつもその視点を持っていただけるようお願いしたいと思います。

緒方会長　他にいかがですか。

事 務 局　今のご意見としてお受けさせていただきます。行政の立場での子どもたちへの文化芸術の提供をやっておりますし、行政は行政の役割としてあるわけですが、民間の文化団体としましてはやはり古賀市文化協会とパートナーシップをとって様々な事業をやっていますいし、委託もしています。その中でも主体的に子どもに対する体験教室を持っていただいたりしています。ある意味そこは事務局の方がコーディネーター的な役割を担ってくださっているところですので、そこのところを改めてコーディネーターとしての認識を持って主体的に取り組んでいただけるような内容になればいいなと考えております。

志賀委員　実践をしております文化協会です。会議や勉強会などいろいろやりますが、まず目標をはっきりしないとなかなか実現しないということがあります。私どもの方でしたら、この事業は子どもが対象であるとはっきり決めて、それに対して、どういうことしたらいいか、どういうツールがいるか、どこに向けて発信をするかということを１年前から行動に移すことをしています。ぜひともコーディネーターを目指す人は、実践だけではなく、最初から加わっていただけると一番わかりやすいかなと思います。

緒方会長　何を目指すかというのは大切なところですから、今お話しがあったように頭で考えるわけではないですから、養成講座をするならば、実際の動き、プロセスも、実践編という形で盛り込んでもらわなければいけないんだろうなと思います。

古賀委員　資料を拝見いたしまして、非常によく整理をしていただいているんですけれども、コーディネーターのイメージがちょっと幅広いので、もう少し細分化して考える必要があるかなと感じました。これはただ今のご意見と重なり合う部分があるんですけど、とっても幅広いことが盛り込まれてしまっているので。たとえば資料の２枚目のコーディネーター育成の目的という一番上の項目、よくある文章で、「～とともに」という文章がありますが、ともにの前と後は違う種類のものがくっついていたりするんですよね。市民と文化団体、文化団体と文化団体をつないだりして文化芸術活動を一層活性化させるということと、異分野と文化芸術をつなぐということは、違うものが一つの文章に繋げられている印象があります。文化活動を活性化させるという意味でのコーディネーターと異分野をつなぐというのは種類が違いますし、異分野も、福祉、教育、環境、例に挙げてあるこの３つにしてもそれぞれの専門知識が必要になってきますので、それぞれのコーディネーター像が違うと思うんですよね。最後に、ざわめきづくりを目指し、コーディネーターを育成するというここに収れんするのは、目的はざわめきづくりですかということになりまして、これは産業振興につながるところになると思うんですけども、色々広げて最後にきゅっと締めるという文章になっていて、結局何を目指しているのかちょっとわかりづらい文章になっているのかなと思いました。ざわめきづくりが今古賀市において一番必要な分野、文化芸術とつないでやらなければならない最優先事項だとしたらそこに絞ってしまったほうがいいんではないかと思います。子どもなら子ども、福祉なら福祉、領域を絞った養成をやっていかないと、本当に目的なんだろうなって、勉強になりました、次につながらないということになります。いっそう、講座なり何なり終わった後に、本当に活動する受け皿がある部分でやるか、先ほどの課長のご説明でもあったように、それがなかなか難しいということであれば、ご自身がすでに活動されている方々を集めるやり方、どっちかだろうと思います。目的をすごく絞り込んで、そのジャンルで新しく活動していただけるような道筋を立てるというようなやり方にするか、活動している方々のステップアップとして、いろんな分野の方々を集めてきて、でも共

通するお悩みは何なのかとか、必要な知識、情報、スキルは何なのかということを探っていくことから始めるか。大きく言うとこの二つに一つかなという印象を持ちましたね。

事 務 局　ありがとうございます。今古賀委員が言われた後者の方を考えてイメージしたところです。初めてコーディネーターを育成しようとしたときに、文化芸術に特化したコーディネーターとなると、私たち自身はあの方あの方とイメージがつくわけですが、なかなかピンポイントで育成するのは難しく、また、まちづくりで考えたときに様々なコーディネーターとしてご活躍いただきたいという思いも少しあって、欲張りかもしれませんが、まずはコーディネーターとは何ぞやというところから、関係団体の方々に募っていただいて、最初は様々なジャンルが出てくるかもしれませんが、その中で少しずつ文化芸術に絞り込んでいく。また、文化芸術に限らず、社会教育関係、生涯学習関係にも働きかえることが可能かなと欲張ったイメージを今は持っております。例えば、古賀委員のアートサポートふくおかの団体は、学校に文化芸術の風をと立ち上げられたと記憶していますが、なかなかそういったピンポイントのテーマというのが難しいので、まずは広く捉えて考えてみました。

緒方会長　間口は広く、その中で優先順位を決めていくんだと。これまでの手法であるから、僕もいろんなものを見てきているけども、長続きしにくいというのがあるんですよね。やはり今、古賀委員が言われたように、古賀市が抱える政策課題は何なのかと優先順位をつけてピンで絞り込んで進めていくっていう方法もあるんじゃないのかなと思うんですよね。何が古賀市として必要なコーディネーターなのかということを市の中で、課の中で絞り込むと、考えるということが必要なのかなと感じました。やはりコーディネーターをつくっても活動の場がなければ育成しっぱなしになってしまうんですね。これも今までの行政の様々な取り組みの中での弊害ですよね。活動の場がどこなのか、ある程度ピンで進めていって、その点を課長が言われたように古賀市では広げていくんだと。そうすると、様々な分野のコーディネーターたちがつくられていくし、つられた人たちがつながっていくし、様々な課題に対して対応しやすくなるのかなと思わなくもないです。

米倉委員　今の古賀委員のお話を聞いて、コーディネーターって何なのかなって疑問に思っているところです。私は書道をやっていて、コーディネーター育成の対象者として文化芸術に関心があり、古賀市を文化芸術で盛り上げようと思っている方に私はなりたいと思っているんですが、コーディネーターって何をするのかなと自分自身が迷っているところです。今、東北の復興支援がきっかけになりまして、そば体験教室をやっていますが、食育の部門と文化芸術の部門で合同して何かを起こせば、ざわめきという感じの人の居場所がたくさん増えていくんじゃないかなというこの考えはコーディネートの一つかなと思います。それは個人だけでは出来ないんですよね。やはり仲間づくりが必要になってくるので、その仲間づくりの中心はつながり広場で、いろんな団体が混ざり合う、交流しあう場所で、じゃあ今度はこちらの団体で活動しましょうとか、どこが動かすかわからないんですが、行政がそこはやってほしい。民間でやっているところはいっぱいあるから、古賀市がこういうことやっているから参加してくださいということを古賀市から訴えていく必要があると思います。幅広すぎる。私は文化芸術で考えていたものですから。でも全部が必要になってくるんですよね、結局。

古賀委員　たぶんアクションプランを作っているときにコーディネーターという言葉が盛り込まれた意図っていうのは、文化芸術にいろんな力があって、趣味で楽しんだりしている人た

ちが心豊かになるって言うのはもちろんなんですけど、社会のいろんな分野で文化芸術をいかして、活性化していくことが出来ると、その力をいかす、その原動力になるのがコーディネーターだということで盛り込んだんではないかと思うんですよ。今、育成のどう取り組むかという話で、古賀市においてどこの分野、ざわめきづくりなのか、教育なのか、福祉なのか、どこにその力をいかすのかというのが行政の課題としてすこし絞り込むのが難しいのであれば、今古賀市において何が必要なのかということを実際に古賀市で活動している方々に考えてもらったほうがいいのかなと。そこから、コーディネーター養成というのかわかりませんが、コーディネーター準備講座のようなものから始めてもいいのかなと。活動されている方の中で意識が高い方いっぱいいらっしゃると思うので、文化芸術とか文化活動に関心があって盛り上げようと思われている方々に集まっていただいて、文化芸術を使って古賀市のために何が出来るのか、そういう人たちをどうやってつくっていけるのかということを皆さんで話し合っていただくところからが、動かす一つのポイントかなと思います。私は古賀市民ではないというところもあって、現状をわからないままこういうことを申し上げておりますので、一般論としてはそういうやり方がいいのかなと申し上げました。

緒方会長　２次調査というのかな、市の現状、市の文化活動の現状の中で、どういう繋ぎ手なり、担い手なりを市民団体なり、文化団体なりが求めているのかなと。今米倉委員が言われたように、食育とアートを繋げていくと。そうすると仲間づくりが出来ますよ、居場所づくりが出来ますよと。それを推進していくと考えた場合行政の力を借りたいと。それならば、繋ぐと考えたときに、その役目は行政が担うのかと。そうではなくて、先ほど古賀委員が言われたように、文化芸術の力を十分に理解した方が間に入っていく、なんでもかんでも行政というわけにはいかない。そうすると、そこに人材としてのコーディネーターというのかな、発生してくるやもしれないと。しかし、それにあたっては、それぞれ市民や文化団体がどう思っているのかなということを把握しないと前に進めないのかなと。フレームだけ作ってやりますよというだけではなくて、何が必要で、どんなコーディネーター像を市民なり文化団体なりが持っているのかと。最近よく多様性といわれていますが、多様性といってもそれは古賀市の多様性なんですよね。古賀市の中で何が必要なのかということなんですよ。ダイバーシティとか行政では使われますけども、他にも、イルクルーシブ、包摂性という意味ですが、よく行政で使われますが、それはそれぞれのところで違うので、先ほど市長が言われたように古賀らしい進め方というのがあるだろうから、このコーディネーターにおいても古賀らしい進め方が出来たらいいんだろうなという気はしますね。

坂﨑委員　僕の場合、実際いろんなところで携わらせてもらっているので、多角的に思うところもありますが、レッツトライプロジェクトで事業にあたっていたときの印象ですと、人口が５～６万だとしてもちょっと駒が少ないなという印象ですね。いろんなところで合う人たちが似ているというのがあるんですが、周知に効率的にエネルギーを使えてないと思います。たぶん情報がいつも同じ人たちに向けて行ってて、新しい人たちに行ってないということが一つ問題だなと。あと、こんな風にやりましょうということは人材育成でやれるんですが、特に今年度、実際に事業を動かしてみましょうという提案をしてましたけど、そこから先になると、例えば産業振興引っ付けてやろうとしてたんですが、今度は事業実施になると人材育成の予算だけじゃ動かない。そこの橋渡しがうまくいか

ないといきなり止まってしまうと僕は感じたところです。そこは僕らの仕事ではなく、行政のほうでやっていただくことで、そうやって人材育成しようとしてるけど、実際動かすときは、例えば産業振興の人たちとか、農業にターゲットを絞ったときは、そこの人たちとの接点を作ってもらうことになるのかなと思いました。そこが上手くいかないことと、予算が付いてないので、行政の方たちも上手くリレーできないんですよね。これが予算がついているとスルスルーと事業が渡っていくんですけど、そういうことがないので、例えばこういうことを相談したいんですがって言っても、なんでこれをやってるんですかって言われやすいですね。課を横断していくような予算のつけ方が出来ているような事業があれば、真似して出来ないのかなと思ったところがありました。人材育成ではじめると、育ってないけど、育ってますという印象になってしまうので、そこは工夫が必要かなと思います。想いはありますけど、よく人がいないとか、適材な方がいないとか言われますが、僕が思うのは、事業動かしてみて人が足りない状態でやると、必然的にというか、必要に迫られたら人は育ってきたりするんですよね。違うことやっている人たちの一部が変質してそこを担ったりというのが多々あるので、人が育ったらやりましょうというよりは、手順的には、事業運営します、やろうという枠組みを決めると人は育っていくと僕個人としては思っているので、そういうやり方は理想的だなとは思っています。先ほど話したように、上手くつなげないということころがあったりすると、そこがスムーズに動けないなという印象ですね。そこはこちらも考えなきゃいけないし、行政のほうでももう一工夫してもらえたらと去年経験する中で思いました。

緒方会長　繋ぐというのはリレーションということですが、リレーションするにあたって、一つ一つ作っていくから、そのリレーションがなかなかしにくいということになるわけですね。

坂﨑委員　具体的に言わないとイメージがわからないと思うのでお話しますが、産業振興と繋げて人材育成をするときに、薬王寺温泉の活性化というのを考えてて、薬王寺温泉に実際に出向いてそちらの方たちと話していると、途中から行政の方たちの影が見えなくなって、私個人の姿だけが見えてくるので、何しに来てるのってなるわけなんですよね。ボランティアなの仕事なのと。ちょっと怖い感じになるんですよ。そうなると、坂﨑くんという人が、自分の儲け話を実現するために来てるんじゃないかって遭遇したことないことない状況になるんですよ。僕は別に儲けようというわけじゃなく、ボランティアとしてやろうと思ってますよと言っても、なかなか先方にも理解してもらえない。なんでそういうことやっているのかこっちからしたらわかりにくいですよという状況になってしまう。みんながそういう風な事業の運営で携わったことがないところかもしれないので、すごく難しいかもしれないですけど、そこはそういう風にやれば上手くいくというパッケージを作れれば、もっとスムーズにいけるんじゃないかと思います。

緒方会長　ありがとうございます。やっぱりプランを作って、次年度以降、一歩一歩現場に踏み出していく中で今のようなことが多々出てきますよね。そこで二の足を踏んじゃうということですね。

加藤委員　結論から言うと、私も漠然としたイメージしかわきません。今、坂﨑委員が言われたように具体的な成果、ここまでいきたいというイメージがないとたぶん難しいと思います。コーディネーターとして手を上げる方は基本的には基礎的知識はあります。なくとも、感性というものは持ってあると思います。人材としては、古賀は広い方が居られると思います。その方たちにわかるような資料づくり。行政としていろんなマスタープランと

か作るときに、最終目的が具体的にこういうまちにしたいというイメージをつくったと思います。前作ったのは、きれいな大根川で子どもたちが遊んでいますというような。最終的なイメージを具体的に示さんと、それに向かってどう行くのかなというのがわからんと思います。もう少し資料を詰めないと、私自身が今の資料でどう進めばいいのかというのが見えてきません。よろしくお願いします。

事務局　ありがとうございます。私たち事務局としましても、雲をつかむといいますか、コーディネーターとしての役割はなんとなく見えながらも、具体的にどう育成したらいいのかというのは大変難しいかと思います。先ほどから言われております間口が広すぎるんじゃないか、ピンポイントに絞ったほうがいいんじゃないかというのも、本当に良くわかるところでございます。例えば、今日ピンク色の資料をお配りしております。古賀市市民活動支援センターに登録しております、市民活動支援団体の一覧でございますが、そこの１ページの２９番は文化協会ですね。文化事業を中心となってやっていただいているんですが、やはり先ほど言いましたコーディネーターとしての役割を一部になっていただいております。例えば、そういうところで事務局の方々にコーディネーターとしてしっかりと認識してもらいながら、広くコーディネート業務を文化協会が担っていただけるようになればいいなという思いが一つあります。２３ページに古賀すたいるという団体がありますが、実は今日傍聴されている方が事務局の大神さんです。こちらの団体は、今広く普及している情報機器を利用して効果的に情報発信をされてて、私たちの事業も広く周知していただいていてありがたく感じているところであります。また情報提供とあわせて色々な仕掛けをしているところを見ますと、ある意味これも企画を含めたところのコーディネートを一部担ってあるのかなとも考えます。そういうところで古賀の団体の活性化、文化だけではないかもしれませんが、コーディネーターとしての役割も担っていただきながらという風に欲張って考えてしまったところです。文化芸術に特化する、その中で学校に絞り込むのか、いやいや高齢化社会に向けて福祉とタイアップするのかそういうところを想定しながら育成に入っていかなければならないと、今たくさんのご意見を伺う中で考えているところであります。

緒方会長　古賀の場合はそれぞれの団体が活発に活動しているというのは間違いないことで、それぞれの団体がそれぞれの団体でコーディネート、リレーションしながらそれぞれと繋がっていく、仲間と、市民と繋がっていくということは間違いないことなんですね。そうするとコーディネーターという存在を市としてどういう風に捉えるのか、どういう位置づけにしたいのかということが大きいですよね。コーディネーターという役割を各団体で強化していくのか、市としてコーディネーターという存在を置いて、市民団体なり、文化団体なりを繋いでおき、さらに、必要としている人々と団体を繋げていくなど、どんなイメージでコーディネーターという存在を捉えているのかということ。これは古賀の状況を踏まえないとコーディネーター像も見えてこないこともあると思います。実際にコーディネーターを作っても、先ほど出たようにそのコーディネーターが繋ぐ中で、新しい事業が生まれるとなるとどうしてもそこに予算が発生してくる。それに対して市として進めるここでいうざわめきづくりで進める事業になるならば市としての予算の裏づけがないとせっかくいい企画が出ても立ち消えになってしまう。立ち消えになるとそこでストップするということで、エネルギーがどんどんどんどん低下してしまってコーディネーターもどっかいっちゃうということになってしまう。そうなると、ざわめきづ

くり市長裁量予算みたいな自由に使える予算が用意できたりすると新しい企画が出てきたときに適宜対応出来ると。というような試行的なことも踏まえて、最終的に事業が展開するまでがコーディネーターの役割になるわけだから、机の上でつなげるだけじゃなくて、具体的に事業があり、その事業がどういう効果があるのか見届けるところまでが仕事でしょうから、もうちょっと長いスパンで捉えられるようなことをしていかなければならないのかなと今いろいろな方たちのお話を聞いて思うところです。

河村委員　今までの話を伺っていて、目標を絞って焦点化しないと実現しないというお話がありましたが、私も共感します。現時点で一番現実的な方策というのは、様々な分野で、活動歴、組織があり、近い将来この分野で中心的に活躍するであろう既存の団体をいくつかピックアップし、今まで築いてこられたものをしっかり固められるようなものがいいのではないかと思います。そこから、コーディネートをされる方が様々なことに基づきながら、今までの経験を踏まえてなさるのが一番効果的成果を生むのではないかと思います。既存の活動をもう一度捉えていただいて、中期的な期間からこの問題を考えられたらどうだろうかと思いました。

緒方会長　僕も古賀市に住んでないからわからないんですが、この７４団体は何か登録制度があるんですか。これは文化協会に所属していることになるんですか。また、この登録されている方々同士の年１回とかの交流会はあるんですか。

事 務 局　この市民活動登録団体は、市民活動支援センター係というところが担っている登録団体になります。この登録制度はいわゆる公益的な活動をされている団体に登録いただいて、団体交流という位置づけでやっていますが、一度に全員が会することはなかなか難しいですが、呼びかけて交流の機会はもっているところです。私が今回この情報をみなさまに提供させていただいたのは、こういう古賀市の団体がいて、ジャンル別では、学術・文化・スポーツの中に文化芸術が含まれているわけですが、その他のジャンルでも、これだけの市民活動団体がいて、そこには異分野でも文化芸術的な要素を含んだ団体がいて、そういうところにコーディネーター的な役割を担ってもらう。コーディネートとはというところから学んでもらうことが、積極的に繋ごうだとか、コーディネートに関わるだとかいう意識も生まれてくるのかなと今考えていたところです。

緒方会長　僕の今の質問は、団体同士が交流する機会があるんですかということなんですが、そこはどうですか。

事 務 局　もちろんあります。ありますが、先ほど言ったように、呼びかけをして機会をつくりますが、全員が一堂に会するというのは難しい実態があります。

緒方会長　今課長が言われたように古賀市として各種団体が力を合わせることを目標にしたいんだということがあるようですので、まずこの方々が集まるという場があるのならば、そこに今後の古賀市の文化芸術の方向性などをおとしていって、そこでみなさんと話をしていき、そこで各団体の意見を聴取しながら、全体としてコーディネート、リレーションをどうしていこうかなという議論の土台というものを少しずつ作っていく方法もあるのかなと思います。

志賀委員　一つ目標を決めるということにつきまして、各団体に呼びかけるいい機会があるんです。古賀市市制２０周年になりますけども、１０周年のときは文化団体、体育団体全員に呼びかけてパレードしましょう、舞台では何かしましょう、展示は展示でという風にいっせいに動き出すチャンスが目の前にあるわけです。それに対して各団体から実行委員さ

んを呼んで、すなわちその人たちがコーディネーターになりうる人たちなんです。１０周年に集まった各リーダーさんたちは、今も各団体で活動されています。それを継続できるようなチャンスを行政のほうが作っていただけると、その実行委員会に集まれます。行動が出来ます。そのときに何をやろうか各委員さんから意見が出てくると思います。そしてそれをやる機会が目の前にあります。どうかそれを活用してほしいと思います。

緒方会長　素晴らしい機会ですね。来年度が２８年度なので、２０周年は２９年度ということですかね。１年かけて作る時間もあるわけなので、すごくいい目標ですね。市民活動団体が集合する中で実行委員会が立ち上がってくるから、その実行委員のメンバーがまさにコーディネーターだと思います。そこにコーディネーター育成の基盤をつくっていくと。そうするとその人たちがそれからの１０年、３０周年のときまでの様々な橋渡しをしてくれるんだと。ある程度の青写真ができますよね、そうすると。

古賀委員　いい機会があるという今のお話を聞いて少し希望が出るところなんですけども、例えばこの２７年度団体情報の一覧に出されているような２０数団体、かなり幅広いので、上手く呼びかけをして、上手く集まっていただくといいことになるなーということになるんですが、集まっていただいて、何をしていただくかということがぼやける可能性もあるように思います。例えば、コーディネーター育成のイメージにある文化芸術というところは絶対。文化芸術の知識や美術史の知識がなければならないというわけではないんですが、私たちがここで語らなければならないのは文化芸術の力を社会の中でどう生かしていくのかのコーディネーターなので、コミュニケーションスキルであるとか、情報収集・処理に関するスキルというのは大事なんですが、市民活動全般に関して言えることなので、市民活動支援センターが行うことなのか、文化芸術のことを考えている私たちや行政の方たちがやることなのかということはおさえておかなければならないと思います。あくまで文化芸術の力をさまざまなまちづくりの領域にどういかしていけるのかということをやるよということをきちんとお伝えしないと、来られる方々の目的意識がばらばらになるかなと思いますので、そこはちょっと注意が必要なんじゃないかと思いました。

緒方会長　さまざまな意見がでました。これらを踏まえて、もうひと練りしていただくことになるのかなと思います。ただ、今出たように市制２０周年といういい区切りがありますので、そこを今古賀委員が言われたように、どう収れんさせていくかということ、課題を明確にして整理するいい機会になると思います。せっかくプランが出来ましたし、それを具体的にしていく、そしてお披露目する一つの場として２０周年がありそうだと。一つ一つをもう少し丁寧に見ていくことをお願いしたいと思います。

５　その他事項

マイナンバーの届出の書類確認を会議終了後にお願いいたします。

８　閉会のことば